

令和7年度 喜久田中学校便り

朝日輝く丘の上



第6号

発行日：令和7年5月21日

文責：校長 物井 隆

連絡先：959-2204

県中陸上大会に参加して思ったこと

2年 橋本 大和

・僕は1500mを走りました。決勝に行けず、悔しかったです。もっといっぱい練習して速くなりたいです。例えば、インターバルを70秒前半で走れるようになりたいです。次は駅伝があります。駅伝に向け、努力を続けたいと思います。そして来年の陸上大会では決勝に行けるように頑張りたいと思います。

3年 大橋 一輝

・僕は驚きました。自分より遠くへ跳ぶ人がいて、目の前で新記録を出す人がいたことに。僕は跳ぶ前から正直、無理だと思ってしまいました。しかし大会を振り返って作文を書いてみると悔しさが込み上げてきた。自分は陸上部ではないが、もっと頑張れば、同じ条件の他の中学校の同じ特設陸上部の生徒には勝てたはずだと。練習でも懸命に取り組むことはしなかった。「どうせ負けるのだから」と。あきらめていた自分がいた。そんな気持ちでは勝利はつかめない。だから次の中体連大会ではあきらめずに自信にあふれる姿で大会にのぞみたい。

3年 鈴木 悠真

・僕は共通砲丸投げに出場しました。28人中21位で悔しい思いをしました。目標にしていた7mに届かず、中学校最後の陸上大会が終わってしまいました。目標の7m突破をしたかったなと思っています。

3年 三浦 成夢

・僕は陸上大会を終えて負けた悔しさもあるが陸上の楽しさと仲間の大切さに気付くことができた。朝の練習では辛いときはみんなで声を掛け合い支え合ってきました。自分に目を向けると遅刻をすることがあり、インターバルの一本目に間に合わないことがありました。それが自分の弱さ、そして負けた理由だと思います。中体連大会までの練習はこの陸上部で学んだことを意識しながら練習に取り組んでいきたいです。最後に僕は陸上部に入部して本当によかったと思っています。自分の持っている力を発揮し200mを走り終えたとき時はとても気持ちよく楽しかったです。中学校最後の陸上大会は最高の思い出になりました。

2年 渡辺 結衣

・私は800mに出場して前に計測した記録よりもよい記録が出てうれしかったです。だけど足が速い人がたくさんいて驚きました。私は思った順位になれず、悔しい思いもしました。陸上大会の次の日、学校での400mインターバル。私は最後の8本目を走れずにまた悔しい思いをしました。自分が情けなく涙が出ました。今日の朝のインターバルでは8本目まで走ることができてうれしかったです。まずは駅伝。そして次の陸上大会でいい記録が出せるようにしっかり練習に取り組みたいです。

2年 安齋 蒼空

・僕は男子800mに出場して悔しい思いをしました。なぜなら全力を尽くしたのに決勝に行けなかったからです。練習の時から自分の限界に挑戦してきたのにと感じました。学校の練習以外にも自主練をちゃんとやっておけば決勝に行けたかもしれないと思っています。他には腕の筋力強化とペース配分を考えるなどの反省点があります。来年は今年の反省をいかして県大会のキップをつかみたいと思います。今回学んだことをいかして駅伝大会でも頑張りたいと思います。

○他にも思いの詰まった作文がありました。経験したからこそ、学ぶことがあったのだと思います。お疲れさまでした。